

(令和2年8月17日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >

(年金受給者のデータ・その4 (完) (年金階層別貯蓄額))

年金受給者のデータ・その4は、このシリーズの最終回、問題となった貯蓄額です。年齢階層別になっておらず、年金の受給階層別になっているので注意が必要です。

まず、年金の受給階層別。受給者が最も多い、300～400万円の受給者層をみると3000万円以上が5.8%、100万円～300万円が5.4%、700～1000万円が5.3%。1000～1500万円が5.0%とばらつきが大きくなっているのが特徴。

逆に貯蓄額階層別にみると、100～300万円が14.9%、300～500万円が11.1%、700～1000万円が10.9%、3000万円以上10.6%と、こちらもばらつきが大きくなっています。貯蓄額が多い世帯は、年金受給額も多い傾向にありますが、年金受給額が多いからと言って貯蓄額が多いとは言えない分布になっています。

< 夫婦公的年金額階層別の貯蓄額階層構成 >

ともに65歳以上である夫婦世帯

	合計	貯蓄なし	100万円未満	100～300万円	300～500万円	500～700万円	700～1000万円	1000～1500万円	1500～2000万円	2000～3000万円	3000万円以上	不詳
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
合計	100.0	5.8	9.4	14.9	11.1	7.1	10.9	9.4	7.8	6.9	10.6	6.3
50万円未満	0.5	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～100万円	2.2	0.5	0.3	0.3	0.1	0.0	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.3
100～150万円	5.4	0.7	0.9	1.0	0.6	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	0.4	0.4
150～200万円	9.9	0.7	1.2	1.7	1.2	0.7	0.9	0.8	0.6	0.5	0.7	0.8
200～250万円	8.9	0.8	1.5	1.8	1.1	0.6	0.7	0.5	0.5	0.3	0.4	0.7
250～300万円	21.3	1.4	2.3	4.0	2.9	1.7	2.4	1.6	1.4	1.1	1.2	1.4
300～400万円	42.8	1.3	2.5	5.4	4.5	3.0	5.3	5.0	4.1	3.6	5.8	2.3
400～500万円	6.5	0.1	0.3	0.5	0.5	0.5	0.7	0.7	0.6	0.8	1.4	0.3
500万円以上	2.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.5	0.1

注) 合計には、本人及び配偶者の公的年金額不詳を含む。

出所 年金制度基礎調査/(高齢年金受給者実態調査)平成29年、調査2017年、公開2019年10月2日

前回も述べましたが、振り返って、昨年の年金+2,000万円問題は「65歳から受給された年金だけで夫婦で生活するには、30年間で2,000万円不足」とのことですが、実態調査から、多くの人は年金だけで生活できるとは思っていないし、65歳で定年を迎えた後も全く収入がないわけでもなく、また、核家族がすべてでもありません。

各自条件はマチマチ。特に、貯蓄額は、各自・各世帯の生き方がきれいに反映されたデータであるのかもしれませんが。

(了)